

研究課題名	腭術後出血に対する血管内治療の安全性と有効性に関する多施設後ろ向き研究
研究の意義・目的	<p>腭術後出血は致死率の高い緊急疾患であります。術後の組織癒着、患者の低耐術能の状況下で、低侵襲性や出血部位への到達時間の観点から、血管内治療が止血の第一選択であります。緊急疾患であるために症例数が豊富な報告はなく、多くは様々な原疾患、術式、出血部位を含んでおり血管内治療の安全性、有効性を評価できていません。出血には腭切離部の腭液婁が関与しています。</p> <p>現在、血管内治療の発展に伴い、コイル（金属製塞栓物質）、バスキュラープラグ（金属製塞栓物質）、NBCA（液体塞栓物質）、ステントグラフト（人工血管）などのデバイスや止血方法も多様化していますが、治療の標準化はなされていません。</p> <p>今回我々は腭術後出血に対して血管内治療を施行した症例を、多施設にて後方視的に収集して、患者および病変背景により層別化を行い、合併症、再出血、死亡等の経過を分析し、血管内治療の成績を評価します。さらに、血管内治療前後の血行動態を血管造影および造影CT所見から把握し、いずれの主要血管が温存されていれば母血管塞栓が許容されるか、またはステントグラフト留置や超選択的塞栓による母血管温存が望ましいかを詳細に評価します。</p> <p>適切な血管内治療のデバイス、手法を知ることによって腭術後出血に対する血管内治療の成績向上に貢献できると考えます。</p>
研究を行う期間	倫理委員会承認日から 2025 年 12 月 31 日
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2010 年 1 月 1 日より 2021 年 1 月 31 日までに、腭術後にドレーンや創部からの出血、もしくは超音波や CT 検査等の画像検査により臨床的に術後出血と診断され、血管内治療にて止血を施行された方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	通常診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報等：【術前または治療開始前の状態、基礎疾患、手術内容、術後経過を記載した患者様の状態を記載した診療録、血液検査データ、CT 画像データの記録】
試料・情報の他機関への提供	特定の個人を識別できない形で、共同研究機関住友病院血管内治療 (IVR) センターに頂いた試料・情報を提供します。
この研究を行っている共同研究機関	<ul style="list-style-type: none"> 住友病院 血管内治療 (IVR) センター（研究責任者・症例登録・事務局）永富 暁 関西労災病院 放射線科（症例登録）三上 恒治 京都第一赤十字病院 放射線科（症例登録）山下 政矩 京都府立医科大学 放射線科（症例登録）廣田 達哉 高知医療センター 放射線科（症例登録）大場 匠 堺市立総合医療センター 放射線科（症例登録）中村 純寿 奈良県立医科大学 放射線科（症例登録）市橋 成夫 八尾徳洲会総合病院 放射線科（症例登録）津島 寿一 大阪市立大学 放射線科（症例登録）影山 健・山本 晃
試料・情報を管理する責任者	代表研究機関の名称・所属・研究代表者 住友病院 血管内治療 (IVR) センター 永富 暁
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。

	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	実施責任者：影山 健 所属：大阪市立大学大学院医学研究科放射線診断学・IVR 学 住所：大阪市阿倍野区旭町 1-4-3 電話番号：06-6645-3831